

<アイデア部門用>

5 空き家の概要

所在地	魚津市真成寺町		
物件概要	敷地面積	144.36 m ²	
	利活用時床面積	1 階	m ² 2 階 m ²
	建築時期	昭和 50 年頃	
	構造と階数	木造 2 階建て	
	用途	利活用前	利活用後

6 提案内容

《テーマ》

空き家活用の NewVision

《コンセプト》

- ・従来型の活用案『人が住む、集う』という規制概念に縛られない
- ・立地や築年数に影響されない本質的な空き家活用案
- ・空き家が本来持っているインフラ（電気、水道）を最大限に活かし、空き家所有者にも利益をもたらす
- ・空き家周辺の方々にも活用に参加していただき、地域の活性化にもつなげる
- ・来る食料危機も見据えた未来型の活用案

《内容》

- ・空き家スペースを活用した食用コオロギなどの飼育、販売
- ・小型の衣装コンテナ（約 400mm×600mm×400mm）内で飼育します。
- ・飼育環境はマイコン制御されたワンボックスです。
- ・6 畳 1 部屋あたり、約 4800 匹/月
- ・生育までに約 40 日、4 部屋で 1 か月あたり 19,200 匹が出荷可能
- ・空き家周辺の地域の高齢者の方々にも飼育に関わっていただけます。（定期的にコンテナを入れ替えるなどの軽作業です）
- ・食用コオロギの需要は高まってきており、販売利益も得られます。
- ・利益は、管理作業を担っていただいた周辺地域の方々や、空き家所有者に還元されます。最低でも固定資産税の額を目指し、上回る分の利益は、将来的な空き家解体費用や修繕費用に積み立てていくのも良いでしょう。
- ・空き家活用として人が住むことを想定していないため、対象物件以外の場合でも物件の状態や利便性が問われず多額のリフォーム費用などが発生しません。
- ・活用できる条件は仮に廃墟状態であったとしても「電気」が使えることだけです。

7 工夫した点

- ・ひとくちに空き家と言っても、その場所も状態も様々です。従来型の人に住んでもらう、人に活用してもらおう、という方向性だと、立地の問題があり、更にリフォームなどが必須となるため、どうしても活用に制限がかかります。
(これが空き家活用のこれまでの限界点であり、それ故なかなか活用が進んでこなかった理由だと考えました。)
- ・空き家の活用を考える時、その空き家がどんな状態であっても利活用できるアイデアはないかと考えました。
- ・そのため、空き家がつもつ共通の特徴（電気配線、水道設備がある、屋根があるなど）に着目しました。
- ・これにより、空き家がどこにあっても、どんな状態でも活用することができます。
- ・マイコン制御により、誰でも食用コオロギの飼育が可能のようにします。
- ・地域の近隣の方々（高齢者やこども達）も飼育の参加が可能です。
- ・また、これからの未来社会において、危惧されている食料危機の問題解決にもつながるような SDG' S の観点とも照らし合わせて、2つの問題解決につながるアイデアを考えました。

8 アピールポイント

- ・これまで考えられてきた空き家活用方法と全く異なる視点で考えました。
- ・今回の対象物件以外の空き家にも活用できるアイデアです。
- ・空き家の所有者の方々の悩みの解決までを考えました。
- ・空き家から利益を生み出し、固定資産税の負担をなくし、将来的な解体費用までを生み出すしくみです。（自治体としてのリスク低減にもつながります）
- ・実は近年、昆虫食ブームが少しずつ巻き起こっています。今は多少嫌悪感を感じる方もいますが、将来的には、加工品も増え、次第に昆虫食は社会に浸透していくと思われます。それが到来してから動くのではなく、今から行動を開始すべきです。
- ・これまでにない斬新な空き家活用方法により、持ち主、自治体、地域、社会全体にプラスを生み出すことができます。
- ・アイデアは、全国各地にあふれる空き家にも適用できます。そのパイロット的な取り組みを、ここ魚津市から全国に先駆けて発信できたら素晴らしいことだと考えます。